

【古典文法 助動詞「せ」識別①】

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- | | | |
|------|------|-----|
| (11) | (6) | (1) |
| (12) | (7) | (2) |
| (13) | (8) | (3) |
| (14) | (9) | (4) |
| (15) | (10) | (5) |
- ① 今宵、「かかること。」と、声高にものも言はせず。（土佐日記）
- ② ひろげて御覽じて、いといたくあはれがらせ給ひて、物も聞こしめさず。（源氏物語）
- ③ 僧の、「もの申し候はん。おどろかせたまへ。」と言ふを、うれしとは思へども、（大和物語）
- ④ 思ひつつ寝ればや人の見えづらむ夢と知りせば覚めざらましを（古今和歌集）
- ⑤ それを張らせて参らせむとするに、おぼろけの紙はえ張るまじければ、求め侍るなり。（枕草子）
- ⑥ 忠度が帰り参つて候ふ。門を開かれずとも、この際まで立ち寄せ給へ。」とのたまへば、（平家物語）
- ⑦ 「かかること、ゆめ人に言ふな。すきがましきやうなり。」とて、入らせ給ひぬ。（和泉式部日記）
- ⑧ 世の中にたえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし となむ詠みたりける。（伊勢物語）
- ⑨ と読みたりければ、帝、ほほゑませたまひて、事なくてやみにけり。（宇治拾遺物語）
- ⑩ いはむや歌はよまざりければ、かのあるじなる人、案をかきて、かかせてやりけり。（伊勢物語）
- ⑪ 水をまかせられんとて、大井の土民に仰せて、水車を作らせられけり。（徒然草）
- ⑫ 広幡御息所と申しける人の、御返しはなくて、薰たき物ものを奉らせたりければ、（俊頬髓脳）
- ⑬ そなたの心寄せ有る人とおぼして、語らはせ給ふも、まことに心の中には思ひ居たること（紫式部日記）
- ⑭ 少し形見とて、脱ぎ置く衣に包まむとすれば、ある天人、包ませず。（竹取物語）
- ⑮ 夜うち更くるほどに、題出だして、女房に歌詠ませ給ふ。（枕草子）

【古典文法 助動詞「せ」識別①】

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- | | | | |
|------|------|------|--|
| ⑪ 使役 | ⑥ 尊敬 | ① 使役 | |
| ⑫ 尊敬 | ⑦ 尊敬 | ② 尊敬 | |
| ⑬ 尊敬 | ⑧ 過去 | ③ 尊敬 | |
| ⑭ 使役 | ⑨ 尊敬 | ④ 過去 | |
| ⑮ 尊敬 | ⑩ 使役 | ⑤ 使役 | |
- ① 今宵、「かかること。」と、声高にものも言はせず。（土佐日記）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つていないと「使役」だとわかる。
- ② ひろげて御覽じて、いといたくあはれがらせ給ひて、物も聞こしめさず。（源氏物語）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つているため「尊敬」だとわかる。
- ③ 僧の、「もの申し候はん。おどろかせたまへ。」と言ふを、うれしとは思へども、（大和物語）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つているため「尊敬」だとわかる。
- ④ 思ひつつ寝ればや人の見えづらむ夢と知りせば覚めざらましを（古今和歌集）
 ：上が連用形になつてゐるため「過去」と判断する。
- ⑤ それを張らせて参らせむとするに、おぼろけの紙はえ張るまじければ、求め侍るなり。（枕草子）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つていないため「使役」だとわかる。
- ⑥ 忠度が帰り参つて候ふ。門を開かれずとも、この際まで立ち寄らせ給へ。」とのたまへば、（平家物語）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つてゐるため「尊敬」だとわかる。
- ⑦ 「かかること、ゆめ人に言ふな。すきがましきやうなり。」とて、入らせ給ひぬ。（和泉式部日記）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つてゐるため「尊敬」だとわかる。
- ⑧ 世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからましとなむ詠みたりける。（伊勢物語）
 ：上が連用形になつてゐるため「過去」と判断する。
- ⑨ と読みたりければ、帝、ほほゑませたまひて、事なくてやみにけり。（宇治拾遺物語）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つてゐるため「尊敬」だとわかる。
- ⑩ いはむや歌はよまざりければ、かのあるじなる人、案をかきて、かかせてやりけり。（伊勢物語）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つてゐないため「使役」だとわかる。
- ⑪ 水をまかせられんとて、大井の土民に仰せて、水車を作らせられけり。（徒然草）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つてゐないため「使役」だとわかる。
- ⑫ 広幡御息所と申しける人の、御返しはなくて、薰たき物ものを奉らせたりければ、（俊頬髄脳）
 ：下に尊敬語がないが、「差し上げなさつたので」と訳すため「尊敬」と判断する。（特殊）
- ⑬ そなたの心寄せ有る人とおぼして、語らはせ給ふも、まことに心の中には思ひ居たること（紫式部日記）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つてゐるため「尊敬」だとわかる。
- ⑭ 少し形見とて、脱ぎ置く衣に包まむとすれば、ある天人、包ませず。（竹取物語）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つてゐないため「使役」だとわかる。
- ⑮ 夜うち更くるほどに、題出だして、女房に歌詠ませ給ふ。（枕草子）
 ：上が未然形で、下に尊敬語を伴つてゐるため「尊敬」だとわかる。